

ぬま健司の提言詳報（第22号）

目次

田辺市長との一般質問の全記録・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1～p 13

<概要>

- 田辺市政検証の第3章として「快生館」と「子ども特定健診」を取り上げました。第1章は3月議会、第2章は6月議会の一般質問を参照ください。
- 「快生館」については、5年間の契約期間終了後の経営主体を確立する必要性を指摘しましたが、明確な答弁はありませんでした。その点をめぐるやり取りがポイントになりますので是非お読みください。
- 「子ども特定健診」については3年前に提言したのですが何も進んでいません。今回は学校健診にしがみついて血液検査を含む「子ども特定健診」についてはなかなか受け入れないというやり取りになっています。

議会運営委員会の視察報告・・・・・・・・・・・・・・・・ p 13

市長選挙に関する資料・・・・・・・・・・・・・・・・ p 13～p 14

「市長選挙に対する私の想いと覚悟」、「無投票結果を報じる新聞記事」

「田辺市長のブログ」

「チーム輝」の紹介、ぬま健司のプロフィール・・・・・・・・ p 15



写真は一般質問で答弁する田辺一城市長と質問する奴間健司（9月9日）





○奴間健司

議場の皆さん、インターネット中継や公共施設のモニターを御覧の皆さん、

こんにちは。会派・友和の奴間健司です。

私は、一般質問を通じて、田辺市政1期目の検証を行ってきました。市政をチェックし、政策を提言することは、二元代表制における議員、議会の重要な責務だからです。地方を変え、国を変える原動力は、議会の力量にかかっているという思いを最近強くしております。

3月は千鳥苑の存続活用問題と公文書管理、6月は第5次総合計画と市民アンケート、並びに薬王寺快生館をテーマとしました。千鳥苑については、存続を求める署名運動が行われ、既に6,000人を超したと聞いております。市長の判断が注目されます。

今回は、11月の市長選挙前、最後の一般質問です。昨日、市長は立候補を表明しましたが、マニフェストはこれからだと思います。この時点で市政を検証する意義はあると考えます。

今回の検証テーマの1点目は、引き続き薬王寺快生館です。市長の強い思いで走り出した事業です。投入する税金は2億1,000万を越すにもかかわらず、将来ビジョンがまだまだ不透明です。

私は、盆休みに家族と嬉野温泉、和多屋別荘に行ってきました。経営陣の構想と地元との関係を肌で感じてきました。そこで質問します。

- 1、快生館の経営責任者は誰か。
- 2、市長は6月定例会で2億円を越す公金投入について、覚悟の要る事業とした上で、行政としては私自身が最後は責任を持つと答弁した。どのように責任を持つのか。
- 3、契約終了後の持続可能な事業展開のためには、契約期間内に経営主体を確立すべきと思うがいかか。また、温泉無料など地域開放デーを設け、

地域とのつながりを強めるべきではないか。

2点目は、子ども特定健診です。私は、2019年9月と12月の定例会で、小中学生を対象とする特定健診の実施を提言しました。その後、田辺市長がどう取り組んだか。これは市政検証の重要なテーマになります。そこで質問します。

- 1、子ども特定健診を提言してから3年が経過したが、どのように取り組んだか。宇美町、香川県、尼崎市などの調査研究は行ったのか。
- 2、古賀市の市民、そして小中学生、高校生の健康状態の経過をどう認識しているか。健康づくりの成果と課題は何か。
- 3、乳幼児から小中学生、高校生までの切れ目のない健康づくりの体制確立は急務ではないか。
- 4、市長の任期中に子ども特定健診実施に向けた道筋を立てることが重要な責務ではないか。

以上、市長の答弁を求めます。



○田辺一城市長

奴間議員の1件目の御質問、「快生館 肝心なことは経営責任」についてお答えをいたします。

す。

1点目についてお答えします。施設の運営全般を委託しているため、オフィス及びイベントの運営形態、また経営に関する裁量などは株式会社SALTにあると考えますが、契約書にある仕様を適正に履行しているかどうかは、発注者である市に責任があると考えております。

2点目についてお答えします。全ての事務事業の予算執行に係る責任者は私であるとともに、事業の内容や成果を分かりやすく市民の皆様に伝える説明責任もあることから、これまで私が出席する行事の場やSNS等で市政の情報発信に努め、予算概要や総合計画などの資料を作成するに当たっても読みやすい工夫を行ってきたところであります。引き続き、市民の皆様への安心安全な暮らしを守りながら、持続可能な行財政運営と市民サー

ビスの向上に責任を持って取り組んでまいります。

3点目についてお答えします。現契約終了後の本事業の在り方につきましては、今後の事業の進捗状況を見ながら検討を進めてまいります。また、地域とのつながりや交流の頻度は確実に増えておりますが、御提案の温泉無料開放など、運営や収支に影響する取組に関しましては、オフィス契約者の御意見や市民ニーズを鑑みながら、株式会社SALTが判断していくものと認識をしております。

2件目の御質問、「子ども特定健診の早期実施、道筋を立てることが市長の責務」についてお答えをいたします。

1点目についてお答えします。近年、食生活の多様化や生活環境の急速な変化に伴い、全国的に肥満や高脂血症、高血圧などの危険因子を持つ子どもが増えていると言われており、小児期からの生活指導、健康管理の重要性は認識しております。議員お示しの子どもの血液検査を含む健康に関わる取組を行っている宇美町や香川県、尼崎市の例も承知をしております。

本市としては、学校保健安全法に基づく健診の機会を生かし、令和3年度からは3中学と連携を図りながら、学校心臓検診の2次検診対象者に対して、市の保健師や管理栄養士が健康相談や食事指導を実施する取組を始めております。また、今年度からは、新たに導入した体成分分析装置を活用し、保護者や子どもたちの食生活や生活習慣について、学校と連携し、健康教育などを行う予定にしております。

2点目についてお答えします。国民健康保険被保険者の特定健診の結果や診療情報などから、市民の健康課題は主に糖尿病や高血圧であると認識をしております。本市の小中学生の健康状態については、毎年実施する健康診断によって把握しています。健診項目について、精密検査が必要な場合には、随時保護者に対して通知し、病院受診を促し、その結果の報告まで求めているところです。健診項目の一つ一つを取れば、毎年精密検査が必要になる児童生徒もおりますが、多くは小中の9

年間で1度も精密検査を行うことがない児童生徒であることから、全体的に良好な状態が継続していると捉えております。高校生の健康状態につきましても、学校で毎年実施されている健康診断によって把握をされております。

健康づくりは、市民一人一人が自分の生活習慣を見直し、改善していくことが基本となります。自分の健康状態を把握し、自分に合った健康に関する知識や情報を理解し、行動に移した結果が市民の健康寿命延伸などの成果につながっていると考えております。また、今年度実施予定の市民アンケート調査により、健康チャレンジ10か条の実践度など、市民の健康づくりの意識動向を把握することにしております。

課題については、国民健康保険被保険者の特定健診の結果や診療情報などから、糖尿や高血圧対策が重要であることを踏まえ、子どもの健康や生活習慣は家庭の健康意識や生活スタイルに大きく影響を受けることから、家族も含めた健康づくりの推進が必要であると考えております。

3点目についてお答えします。乳幼児については、4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査のほか、育児相談会や離乳食教室を実施し、児童の健康の保持増進とともに、保護者に対して健康づくりの意識づけを行っています。保育園児や幼稚園児については、小学校就学前に就学前健診を行っており、その診断結果は小学校へ引継ぎされております。また、小中学校においては、定期的な健康診断を行っており、診断結果を記載した健康診断票を作成しております。この健康診断票は、中学校卒業後の進学先の高等学校まで送付をしております。

このように、幼児から高校生まで切れ目のない健康づくりの体制は構築されていると認識しております。今後も本市のヘルスアップぷらんに基づきまして、関係部署や学校、地域、企業などの関係団体と連携し、年代に応じた取組を推進してまいります。

4点目についてお答えします。本市は、全ての世代の市民が自分の健康に関心を持ち、ライフス

タイトルに応じた健康づくりに主体的に取り組むことで、生涯にわたって健康な生活を続けていけるまちをめざしております。子どもの健康は、家庭や学校生活で育まれるものですので、本市としては乳幼児期からの保護者に対しての健康づくりの意識づけや体成分分析装置の活用、ハイリスク者へのアプローチなど、まずは現在行っている事業の充実に努め、学校などの関係機関と連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立をめざしてまいります。

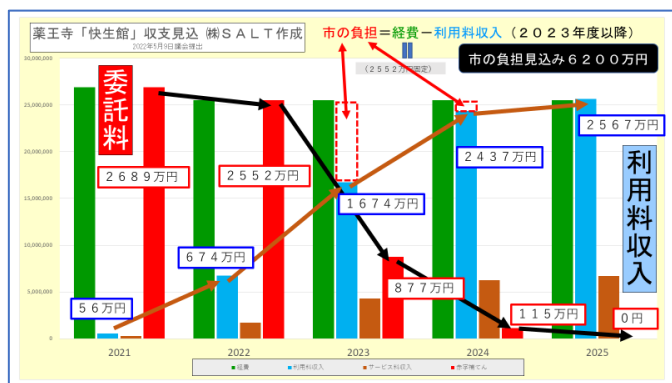
第1のテーマ 快生館に関する再質問
契約期間終了後の経営主体は不透明

○奴間健司 今回は、税金の使い方の問題というよりは経営責任ということに焦点を絞っています。先ほど答弁では、経営責任者はSALTであり、仕様が守られているかどうかをチェックするのは市に責任があるという答弁でした。ということは、契約終了後の経営持続ということに責任を持つのはSALTになるということでしょうか。

○野村哲也総務部長 これまでも御答弁いたしておりますとおりに、契約終了後についてはまだ決まっていないということでございます。

○奴間健司 そこが今回解明しなかったんですが、約2億1,000万を越す税金がもう既に予算化され、そしてこSALTとは5年契約で1億2,897万円を委託料として払うことになっています。

画面をお願いします。



これは、SALTが作成した契約期間の収支見込みで、6月議会でもお見せしました。経費は、初年度を別として、固定されていて2,552万円になります。古賀市はその経費分を委託料として支払う。

3年目からは、利用料収入が上がれば、それを差し引いた分を支払う。そして5年目には、見事経費分の利用料収入が見通せるということで、市の持ち出しはゼロになります。SALTにとってみれば、利用料収入が上がろうと下がろうと、必要な年間経費は保障される仕組みかと思えます。

そこでお尋ねしますが、市が求めているのは、5年目に市が委託料がゼロになること、必要経費を利用料収入で賄えるようにすることが目標ですか、いかがでしょうか。

快生館 市の持ち出しゼロが目標か？

○星野孝一経営戦略課長 本契約につきましては、契約書にあるとおり、日頃の維持管理、あるいは鍵の開け閉め、防犯上の管理、それと各部屋の入居を促進していただくことにございます。総額につきましては、プロポーザルで1億数千万で契約している関係上、委託料としては、仮に収入がゼロでも全て作業が行われたということで支払うこととなりますので、収入の目標設定というのとはしておりませんので、収支に関しては、特にあくまでも計画でございますけれども、これが上下しましょうが影響はございません、委託料に関しては。

収支見込 人件費固定でやる気出るか？

○奴間健司 和多屋でも感じたんですが、経営責任者っていうのはやっぱり社員に飯を食わせること、働きがいを感じさせるというのは大事な要素ですね。経費が固定されていて、人件費は5年間同額です。利用料収入が相当増えても同額ということになりますね。こういう経営者の下で、あそこで働く若い人たち、本当に働きがい感じると思えますか。あるいは、6年先に何か希望を持てると思えますか。市にとってはいいでしょう、委託料はゼロになるんだから。ビジネスマンとして、経営者として、そういう姿勢でいいのかなって疑問を持つんですが、市長はどう思いますか。

○田辺一城市長 個人、属人的なことを言うのはどうかと思いますけれども、そういう視点で御質問をいただいているので、SALTを運営される方については、非常に意欲的にですね、コロナ禍前からこうした事業を展開してきて実績を大き

く上げてきています。そこで働く人も非常に多様
ですね、むしろ自らここで働きたいということ
で快生館だけじゃなくて様々なSALTの事業の
中で働いている方々がいると私は認識しています。

ですから、この快生館についてもですね、非常
に今こういう構図だったら、何というんですか、
本気でやるのか、それは経営をというような視点
なのかもしれませんけれども、この構図にかかわ
らずですね、今まで出した結果をさらに様々な地
域において発現させていきたい、社会の中で発現
させていきたいという意識を強く持たれている意
欲的な方ですので、今こんなやり方というか、そ
ういふ問いかけをあえていただいたんで、こうい
うちょっと属人性のある回答を、今受けていただ
いてる方についての回答をさせていただいており
ますけれども、あんまりこの経営についてですね、
私はかなり信頼をこの方には置いています。

○奴間健司 最初、利用料収入 56 万の見込みが 5
年後 2,567 万円ですよ、利用料金。そこまで頑張
ったら働いている人の給料やボーナス、どんと上
げてあげたいと思うんですよ。そういう感覚、市
長は持てないのか。それは、SALTの本社は快
生館で頑張ってる人に対して、市はくれないけど、
何かプラスして励ましたりするんですかね。あそ
こで働いてる若い人たちのことを考えると、きつ
いなど、ブラック企業になってんじゃないかとい
う、責任を感じますのでね、市長どう思いますか。

○野村哲也総務部長 何ですかね、市と直接は関
係のない法人のことについて、とやかく言うとい
うことは市のほうでは差し控えさせていただき
たいんですけども、モチベーションが上がらないと
いうふうにおっしゃってますけどですね、逆に
言うと、この委託料を超える収入を得れば、それ
は全てSALTの収入になりますので、そういう
意味では、そこ以上をめざして頑張るとい
うところはあるかと思っておりますので、必ずしもモチベ
ーションが働かないという仕組みにはなっていないとい
うふうにご理解をしております。

○奴間健司 話題を変えて、古賀駅西口の本質的
再生事業を参考に見たんですね。ここでは、委託

を受けた方や地元の経営者が株式会社を立ち上げ
ました。自己資金を投入して施設を開設し、木曜
日は地域開放デーを設けてるそうです。商工会に
も報告してるそうです。また、銀行から融資を受
けて、契約期間を超えても長期的に責任を取る姿
勢を示しておられます。行政は、こうした取組を
支援し、委託契約終了後は自走、つまり自力で経
営することをめざしているわけです。

これと比べても、快生館の場合は、今のままで
は将来の担い手が見通せないと思うんですね。状
況を見ながら考えるという答弁でした、今日も。
明確に自走体制をめざすということをはっきり言
うべきではないですか。いかがでしょうか。

快生館 自走体制めざすべきではないか？

○星野孝一経営戦略課長 現契約の終了後は、所
有者のほうに全て所有権が移ってしまいますので、
今この場でどうこう計画を立てることがちょっと
難しいのかなと考えてございます。

○奴間健司 であるなら、現実的に取れる選択肢
はあまりないと思います。2026 年度以降、つまり
契約終了以降は株式会社快生館にお返しする。立
派に改造したやつも有益費、償還請求を放棄して
差し上げるわけですから、その後は株式会社快生
館が担っていただく、そういう目標設定でやっ
たらどうですか。そのためには、大楢社長にも今か
らもSALTと一緒に共同経営したり、考えたり
する。突然返されてじゃなくて、準備期間を設
けて引き渡す。これが現実的選択じゃないですか。

○星野孝一経営戦略課長 今から契約切れるまで
数年ございますので、その間に3者で、あるいは
ほかの業者も入ったところで、今の地主様が新た
な経営主体を探されるのが一番理想的ではあると
思っておりますけれども、今の時点で、市がこう
したほうがいいのかというのはなかなか言いづら
い状況になってございます。

市長 2 期目最後の年に明け渡しを迎える

○奴間健司 仮に市長が続投することになれば、
2 期目の任期最後の年に明け渡しを迎えるんですよ。
そのときになって慌てても私は手後れだと思
うんですね。もういっそのこと市長が社長になる覚悟

ですよ、契約終了後を引っ張っていく。そのぐら
いの覚悟を市民に示すことはできませんか。

○田辺一城市長 その時になって慌てるということにならないようにマネジメントをしていきます。

契約終了後は明け渡し、税金投入やめるべき

○奴間健司 状況を見ながらしか経営主体考えられない、今日も答弁そんなですよ。言葉巧みにこの場をしのがないで、もういつそのこと、そういう形で行ったらどうですか。株式会社快生館に契約終了はお任せする。もうこれ以上税金はつぎ込まない。2億円以上も国費使ってるわけだから、その恩返しは市長自らやっぱり努力すべきじゃないですか、いかがでしょうか。

○田辺一城市長 言い方とは思いますが、仮に2期目が市民の皆様から負託をいただけるということになれば、本事業について、議員御指摘の終了のときに慌てることのないような状況を具現化していきます。

経営主体を明確にしないことは「怠慢」

○奴間健司 市民に経営主体をこうするんだということ
を明確にする。ともかく手をつけて走り出しちゃってるんですよ、今。私は、さっき怠慢という言葉がありましたけどね、私はないところでそういう言葉を使うのは嫌です。市長のいらっしゃる目の前で言いますが、経営主体を明確にしないことこそが最も本質的な怠慢じゃないですか。

○田辺一城市長 そうは思いません。

○奴間健司 じゃあいつになったら、いつ頃に経営主体を明確にするとお約束できますか。

○野村哲也総務部長 繰り返しの答弁で恐縮ですけども、契約終了前には当然決定しているということでございます。

○奴間健司 2億円以上もの国費を投入してですね、スタートアップしたわけですね。やっぱりその後どうなるのか。これはビジネスマンだったらもう必死で考えますよ。国の金だからおっとり刀にいるんじゃないですか、どうですか。

○野村哲也総務部長 ちょっと言葉が大変失礼なような、ちょっと感じて受けさせていただいています。私たちですね、この件のみならず古賀市民

のために日夜努力してるつもりでございますので、ちょっとその辺の失礼な言葉はちょっと撤回していただきたいと思えますけども。別に、何ですかね、国の税金だから手を抜いてるとか、もちろんそういうことは全然ございませんで、やっぱり古賀市の地域活性化のため、また観光業の活性化のため、一生懸命尽力するつもりでございます。

○田辺一城市長 効果の発現は、先ほど申し上げましたように、既に出てきています。今起きている現象というのをぜひ見ていただいて、そこに関係してくれている様々な人々をぜひ見ていただいて、これからこの快生館というのがさらにどういう、我々がこれまでも申し上げてくるような場になっていくという可能性をぜひ体感していただきたいと思えますし、それが恐らく我々が申していることが共有できる1つのきっかけにもなるかというふうに思っています。

本事業については、先ほど来申し上げておりますように、しっかりと現在の契約終了期間までに効果の発現をめざすということに、職員とともに現在全力で市行政として取組をさせていただいておりますし、その後についても、我々は責任持って、走りながらベストな形を形成していきたいと思えます。

○奴間健司 経営主体が明確に示されないということについて、今回経営責任という立場からお尋ねしたんですけど、相変わらず曖昧なんですよ、答えはね。

私 11 日のイベントも行く予定です。既にオフィスも使ったし温泉もつかりました。今はいいんですよ。だけど、契約終了後の見通しというのは、やっぱりビジョンを持つのがね、和多屋の話を冒頭紹介して、あそこは規模は大き過ぎますけど、それがやっぱり経営責任者の責務だと思うんです。SALTではなくて、やっぱり市長御自身が将来ビジョンを明確にする。国費をこれだけつぎ込んだ以上、しっかりその責任は引き受ける。そこだけははっきり今日表明してくれませんか。

○田辺一城市長 そもそも契約書にある仕様というのは、我々市行政、また市長である私に責任が

あります。この仕様というのは、我々が快生館という場でどのようなことをめざしているかということがあって作られているものですし、その仕様というのを満たして我々がめざすところが具現化されれば、それは快生館、薬王寺温泉だけじゃなくて、このまちのまちづくり全体にそれがいい方向に向いてくる。そういった考えの下に発注をしておりますので、そうした意味での発注責任はもちろん私にありますし、その目的が達せられるように職員とともに全力を尽くしていくということをかねてより申し上げております。

○奴間健司 自分子どもと同じぐらいの世代の若者があそこで頑張っていますのでね、働きがいや将来の希望が持てるように、社長としてですよ、田辺市長しっかり展望を示してあげるべきだなと、そのことは強く申し上げておきたい。

経営主体の件については、今日も相変わらず釈然としない答弁だったということは申し上げておきたいと思うんですね。

第2のテーマ 子ども特定健診に関する再質問 実現に向けた道筋は不透明

2つ目に移ります。子ども特定健診の問題です。画面をお願いいたします。

子ども対象の血液検査 田辺市長の答弁

宇美町の血液検査は、子どもの健康に係る取組を考える上で非常に有意と認識

今後の取り組みを考えるにあたって、本日のやりとりは念頭に置かれる

2019年9月6日の一般質問

これは3年前、9月6日の市長の答弁です。宇美町の血液検査は、子どもの健康に係る取組を考える上で非常に有意と認識している。今後の取組を考えるに当たって、本日のやり取りは念頭に置かれる。大変前向きな答弁と受け止めました。この認識は今も変わらないですか。

○田辺一城市長 議員が子どもということでももちろん質問されてるんですね、子どものという

ところで引きつけて当然答弁してはいますけれども、そもそも子どもにかかわらず我々人間の健康に関わることをですね、調べる上で、血液による検査というのはそもそも非常に有意であるということでもあります。それはもう一般的に当然そうだと思います。本日のやり取りは念頭に置かれると、市議会でやり取りしていることは常に念頭に置いて、我々行政運営をしています。

○奴間健司 その3か月後、2019年12月議会には次のように答弁しています。

画面をお願いします。

子ども対象の血液検査 田辺市長の答弁

まずは既に実施している30歳からの対策も含め、現在対象の年齢層に対してしっかり行っていきたい

法的に義務付けられているものから優先的に実施し、その後しかるべきときに、モデル校での実施も含め、子どもの血液検査を検討したい

2019年12月16日の一般質問

まずは、既に実施している30歳以下の対策も含め、現在対象の年齢層に対してしっかり行っていきたい。法的に義務づけられているものから優先的に実施し、その後しかるべきときにモデル校での実施も含め、子どもの血液検査を検討したい。こう答弁してます。しかるべきときというのがキーワードですが、この認識も変わっていませんか。○田辺一城市長 もちろん議員にとってはしかるべきときはいつなのかという問題にはなると思いますが、しかるべきときというのはしかるべきときに検討したいという姿勢は変わっていません。○奴間健司 ということは、先ほどの答弁、学校健診でまずやるとか、今行っている事業をまず充実させてくれという趣旨だったと受け止めましたが、まだしかるべきときじゃないと考えているのであれば、その理由はなんですか。

市長：子ども特定健診を検討する時期ではない

○田辺一城市長 結論から言うと、しかるべきときではないと今判断しています。全部大事なものは、何もかも大事なんですけども、特にですね、高齢者ですよ、今新型コロナウイルス感染症がま

だ脅威である社会状況の中で、やっぱりこれにかかると重症化のおそれがあって死亡リスクが非常にあります。こういう高齢者の方々の行動が今抑制せざるを得ない社会状況にあります。こうなってくると、もう議員、わざわざ私が説明するまでもないかもしれませんけれども、やっぱり運動機能とか認知機能の衰えとかフレイル、こうしたものが進行して、いわゆる健康寿命を短くする。こうした懸念は、今多分この認識は共有できていると思います。

こういったところでですね、併せて社会保障費の伸びも当然懸念されるというか、もう必ず伸びていきますので、こういった状況下の中で、やはり高齢者の健康づくり、介護予防というところにしっかりとさらに取組を強化していくと、そういう重要性が高まっているというふうに私自身認識していますし、今行政としてももちろんそういう認識でやっていかなければならないなという姿勢です。

だから、全ての世代の取組は当然大事です。それは議員も子どもに焦点を当ててらっしゃいますけど、大事ではありますけれども、特に高齢者の皆様に生涯にわたって健康を維持していただけるように、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に優先して取り組む必要があるというふうに我々は認識しています。

○奴間健司 またちょっと暑くなってきたんで、上着脱がさせていただきますが、市長も我慢しないで脱いでもらって結構ですけど。

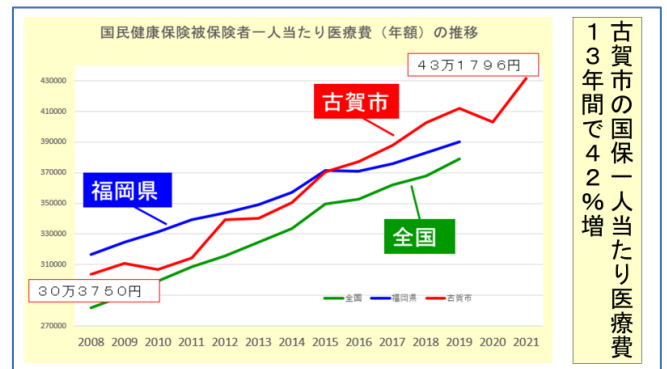
高齢者が優先で、若者はまだ手つけなくていいというふうに受け止めていいですか。

○田辺一城市長 手をつけなくていいということではなくて、既に第1答弁で申し上げてますけれども、現在学校で行ってる健診とそのフォローアップによって、相当程度目的を達せられているという認識に立っています。

○奴間健司 私は、その考えを1つずつ解凍していく、融かしていきたいと思うんですよ。さっきの答弁でも子どもの状態は全体的に良好な状態だと答弁がありましたね。その辺はやっぱり引っか

かるんで、明らかにしていきます。

増加し続ける国保一人当たり医療費
画面をお願いします。



これは、大人になりますけど国民健康保険被保険者の1人当たり医療費の推移で、赤い折れ線グラフが最新情報まで含めて古賀市、青が福岡県、緑が全国です。古賀市が大きく増加しているのが分かります。2008年、約30万3,000円だったものが、2021年には何と43万2,000円まで増加しています。2021年5月の国民健康保険保健事業実施計画中間評価報告書では、高血圧、血糖コントロール不良者、脂質異常症の割合が2016年度以降、年々増加傾向であると指摘しています。特に脳血管疾患や虚血性心疾患を主病とする疾患の医療費の抑制を新たな評価指標に加えています。こういった状況を考えても、早め早め、若い頃からの生活習慣改善が必要だということを示していると思います。いかがですか。

○島居隆浩学校教育課長兼主幹指導主事 議員お尋ねの検査の結果でございますが、1市7町の小中学校のデータがございますので御紹介させていただきます。

尿検査で2次検査まで陽性が出て2次検査まで進んだパーセントでございますが、古賀市は0.4%でございます。1市7町の合計はですね、0.47%でございます。ですので、古賀市は若干下回っております。

それから、心臓検診でございますが、2次検診受診者、これについても比較しておりますが、粕屋区全体では3.65%が2次検診を受診しております。かつ古賀市でございますが、0.22%で著しく

低い数字でございます。それから、これは中1でございまして、中学校はございまして、若干中学校は高うございまして、中学校では2次検診、心臓の2次検診受診者は11.07%、粕屋区は8.05%、これは少し、中学校は高うございます。

こういったデータがございまして、おおむね良好というふうに感じているところでございます。

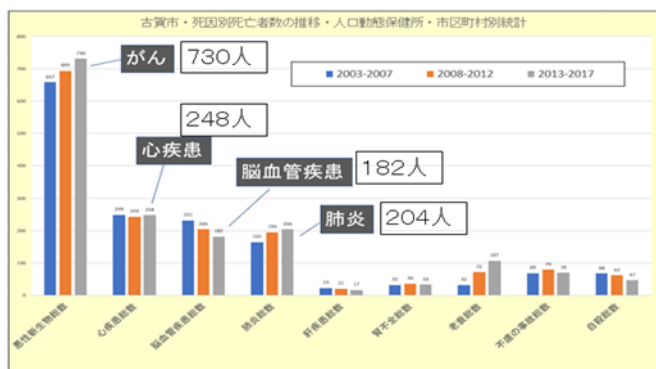
○宮上洋子健康介護課長 古賀市の健康保健に関するデータ、健診データから見ますと、議員御指摘のように、やはり生活習慣病に伴うリスクを抱えた世代が多数いらっしゃるということは認識しております。

○奴間健司 今医療費の急増ぶりをお見せしたんです。市長はこの危機感、抱きませんか。

○田辺一城市長 危機感というか、懸念する点はあるというふうに思います。ですから、各年代でしっかりと健康づくりに取り組むということを申し上げてるところであります。

3大死因 がん、心疾患、脳血管疾患

○奴間健司 もう一つデータを見せします。画面をお願いします。



これは、2003年から2017年度まで、5年単位で死因別死亡者数の推移です。厚生労働省が公表しています。がんは、2013年度から2017年度、一番新しい5年間になります。730人お亡くなりになり、第1位。しかも増加傾向です。心疾患は248人で、ほぼ横ばいで高止まり。脳血管疾患は180人で減少傾向であります。肺炎204人で増加傾向。高齢化に伴い老衰による死亡もやっぱりおのずと増えています。人間である以上、寿命はありますし、避けられない病気もあると思います。しかし、生活習慣病予防対策で救える命はあるはず。亡

くなった方々の年齢分析ができれば、もっと鮮明になると思います。がんにしても、子どもの頃からもっと健康づくりに関心を持ち、検診の必要性を認識させることはとても大切になっていることを示すデータだと思っておりますが、市長はどう受け止めますか。

○宮上洋子健康介護課長 議員御指摘のように、福岡県保健統計年報によります古賀市の死亡の上位3位に関しましては、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患になっております。また、国民健康保険の医療費の統計によりますと、医療費がかかっているのは糖尿病、がん、高血圧性の疾患というふうになっております。その中で、古賀市といたしましては、生活習慣病に関する生活改善に向けた取組を力を入れていきたいと考えております。

○渋谷倫男保健福祉部長 補足をいたします。先ほど、市長第1答弁でも申し上げましたが、やはり先ほど来出ております糖尿、高血圧対策が重要であるということも私ども認識しておりますし、子どもの健康、生活習慣におきましてはですね、家庭の健康意識や生活スタイルというのが非常に大きく影響を受けることがありますことから、家族も含めた健康づくりの推進が必要であるというふうに私ども考えておるところでございます。

市長出馬表明 健康課題の危機感薄くないか

○奴間健司 昨日、市長が(出馬)表明したんですが、私も市長のブログをもう一回読み直したんですが、健康課題と対策という分野はほぼ皆無なんです。そこに対する危機感が薄かったり、重点の置き方が軽いつていることはないですか。

○田辺一城市長 ないです。

○奴間健司 冷たい発言だなと。先ほどの議員じゃないけど、言葉遣い、気をつけましょうよ。

画面をお願いします。

これは、既に子ども特定健診を行っている自治体のごく一部のリストです。糟屋郡宇美町は2018年度から、コロナで中断ありましたが、今年度は小5、小6、中2。香川県は2012年度から県内全市町で小4、そして中学にも拡大しています。受診率は90%を超えています。尼崎市は2010年度

子ども対象の血液検査 他自治体の取組

宇美町	小5、小6、中2	2018年～
香川県	県内全市町、小4	2012年～
尼崎市	11歳、14歳	2010年～
松本市	小4、中2 保健師の出前講座	2013年～

から11歳と14歳、もう既に13年の蓄積があります。長野県松本市も同様です。

これは宇美町のホームページです。

2018年度、2019年度実施 小学5年生で約3割が血糖高値

宇美町のホームページ「うみこ健診」のご案内
 対象：小学5年生、6年生、中学2年生
 検査内容：●体格検査 身長・体重
 ●血液検査 血糖検査、脂質検査、腎機能検査、肝機能検査、血球検査
 ●尿検査 尿蛋白、尿糖、尿潜血、一日推定食塩摂取量

宇美町では、血液検査で血糖、脂質、腎機能、肝機能を検査しています。尿検査で食塩の摂取量も検査します。小学校5年生で約3割が高血糖値であることが分かり、食育に力を入れています。検査の結果を受け、保健師が保護者と児童生徒を対象に結果説明会を行っています。保護者から、この取組は珍しいですね、家族で食生活などを見直すきっかけになりそうですと感想が寄せられています。子どもからは、塩分を摂りすぎていることがよく分かりましたという声が寄せられているそうです。

古賀市の声もぜひ聞いてみたいもんだと思いました。古賀市も、他の自治体に学び、まさに今が踏み切るしかるべきときではないですか。

市長「血液検査なくても健康づくり強化している」

○田辺一城市長 今議員がですね、子どもの血液検査に取り組んでいる自治体における反応というのを御紹介いただきました。それは、その取組自体は有意なものなんだろうと思います。一方で、今ですね、我々が子どもを対象とした血液検査をやっていないからといって、子どもの健康状態の

把握だったり、各御家庭が健康を意識してもらいたいからそういう取組ができていないかということ、そうではないと我々は判断をしています。先ほど申し上げたような今年度も新たに導入した分析装置を活用してですね、保護者や子どもたちの食生活や生活習慣について学校と連携し、健康教育などを行っていく取組も有意だと思って我々はやっています。

つまるところ、子どもの血液検査をすることによる有意なこともあるけれども、これをやっていないからといって古賀市が子どもたちや保護者、各御家庭が健康を意識するための取組をやっていないかということ、私たちはその取組を強化してるつもりですし、しっかりと市民の皆様にもそこは伝わっていると理解をしています。

○奴間健司 もうちょっと説得力を示したいんですね。2011年度、2021年度の香川県の結果の概要が公表されてるんですが、ちょっとやっぱりショックなことが書かれています。LDLコレステロール、市長御存じですよね、悪玉コレステロール、私も抱えてます。男子で令和の3年間に増加傾向だった。一方、善玉コレステロールは低いままで、コレステロール全体ではコロナの流行が始まった途端急増して頭打ちになってるっていうんですよ。

その原因をいろいろ分析した結果、コロナ禍における生活習慣の悪化がありそうで、特にゲーム、スマホ等の利用時間が2時間以上の割合が増加傾向にあった。利用時間の長いほうこそ肥満傾向が多い。こういった血液検査の結果を踏まえて、対策をさらに強めようということを引き出してるわけです。だから、私今やってることは無駄だって言ってるんじゃないかと、加えてやっぱりこれやることでより効果が出るんじゃないかということで、今ちょっとまた香川県の分析結果、LDLのことで子どもですよ。どう思いますか。

○渋田倫男保健福祉部長 私どもも先進的な取組をされています宇美町、それから香川県のほうにですね、状況をお伺いいたしました。それぞれ課題を以前からお持ちで、例えば香川県のほうにおかれましてはですね、平成20年、人口10万人当た

りの糖尿病患者数の受療率が全国1位になってしまったと、また死亡率も非常に高いという状況があったことから、こういう取組につながったというふうに伺っております。また、宇美町におかれましてもですね、福岡県内で後期高齢者の医療費がかなり高い状況にあったことから、この取組をやられたんだということでお伺いをいたしております。

私ども、振り返ってみますとですね、言い方は悪いですけど、そこまで極端な形でですね、医療費、状況においてはなっていないのではないかという部分もあるということは御理解をいただきたいというふうに思います。

○**奴間健司** 部長、よく調査していただいておりますがたいなと思います。

香川県のさっきの報告の中で、もう一つショッキングなんです、ヘモグロビンa1cの値が5.6以上が12.3%で増え続けていると。うどん県ということで売り出したんですが、逆に糖尿病が増えちゃったというんですね。しかも6.5以上が数名いてですね、もう実質糖尿病を発症していると思われる。そういった子ども、保護者には速やかに結果を通知して、医療機関への受診をきちんとしと。また、6.0から6.4もいらっしやったそうで、もう精密検査をしっかりと受けると。こういう指導につながってるんですよ。

さっきの評価は全体として良好だと言うんですね。そうじゃないと私は思うんですよ。やってないから駄目だというんじゃないで、やればもっとリアルに現状がつかめるし、対策も見える。そこを言ってるんですが、どうですか、市長。

○**島居隆浩** 学校教育課長兼主幹指導主事 昨年度の尿検査の際に、異常が出た子がおりまして、その子は糖尿病という判定が出まして、病院のほうに受診をつながっている実例がございます。

市長「学校健診で良き状態に導いている」

○**田辺一城市長** 現在学校で行っている健診でちゃんと懸念のある子どもを見いだして、それに対応するということが本市はほかの自治体と遜色なくやっているというふうに思っています。あわせ

て、各御家庭でのですね、健康意識等を促す取組も強化をしてくれています。つまり、これも各御家庭で子どもの状態というのを常々意識してほしいという思いがあってやってるわけです。ですから、こうした意識を広げるということと併せて健診という、学校における健診で出てくる結果をもって、きちんと本市の子どもたちを適切な形でよき状態に持っていくための取組はできていると考えています。

○**奴間健司** 学校健診は法律で定められているので、どの自治体でもやってるんですね。プラスしてやってる自治体が増えてるんですよ。もう3年前から指摘してるんですよ。こういった取組を10年以上続けてる自治体とそうでない自治体で差が出てくるんじゃないか、行政サービスの格差が子どもたちや大人の健康格差につながっては絶対いかんと思うんですね。それは避けようと、これを呼びかけてるんだけど、どうですか。

○**宮上洋子** 健康介護課長 本市におきましては、血液検査のほうは行っておりませんが、反対に本市が行っている取組、本市しか行っていない取組もございます。それを充実させることで子どもたちの健康を守っていきたくて考えております。

業務実態が子ども健診実施の決断妨げていないか

○**奴間健司** この壁はどうしたらいいのかなと、悩ましいですね。もし、しかるべきときだと判断できない理由の中に、子ども特定健診や保健指導をやれば当然職員が必要です。学校の協力も必要です。現在の業務でアップアップしている、もうこれ以上無理だよということが決断を妨げてるってことはありませんか。市長いかがですか。

○**田辺一城市長** それはありません。

○**奴間健司** 子ども特定健診を実施している自治体も高齢者の一体的実施もやってるんですよ。新型コロナも当然対応しています。条件は古賀市と全く同じなんです。なぜ取り組んでいるところと、取り組もうとしないといいますか、取り組めないところがあるのか。やっぱりそこを具体的にメスを入れて研究する、これを指示できるのは市長しかいないと思うんですね。保健福祉部に任せるこ

とじゃないと思うんですよ。市長は、そういう指示をすることは、おつもりはありますか。

○田辺一城市長 ほかの自治体の状況は、背景も異なるので分かりませんが、本市がまちづくり全部ですね、本市が本市特有のまちづくりを進めるに当たって、最適な人的配置だと思われる体制を今取って各種取組に当たっており、各世代の健康づくりもその中の1つであると。現在考え得るまちづくり全体における最適な配置を行っていると思っております。

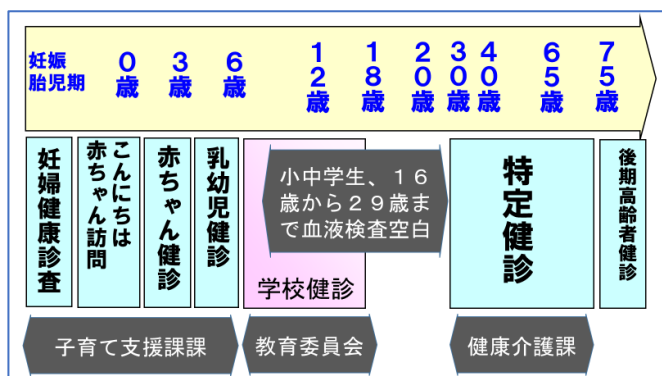
宇美町から経験を聞いてほしい

○奴間健司 糟屋郡宇美町では、決して職員数多いとは思えないんですが、乳幼児から小中学生を一体的に見るためにこどもみらい課をつくったんですね。実はこれは教育委員会も入っているの、これ国より一歩先んじてるんですね。そこに従来健康づくり課にいた保健師が配置されて子ども特定健診を担当するようになった。糟屋郡ではしよっちゅう市長、町長会うことがあると思うので、宇美町からちょっと聞いていただきたいんですけど、市長。どうですか。

○田辺一城市長 機会を捉えて、お話聞いてみたいと思います。

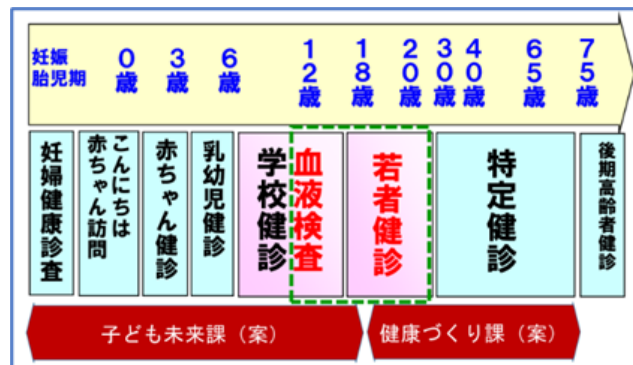
小中学生から29歳までの健診空白期間

○奴間健司 古賀市の健診体制、既に連続的な構築されているというのですが私の認識と違います。画面をお願いします。



古賀市では、母子保健ということで妊産婦、乳幼児は子育て支援課が担当。小中学校は血液検査はまだやってませんが学校健診はありますが教育委員会。どうも16歳から29歳までは空白で、30

歳から74歳までは健康介護課担当の特定健診、75歳以上は後期高齢者健診。



私はこれを宇美町にならって、小中学生までを「こどもみらい課」を新設して担当する。16歳から74歳までを「健康づくり課」、今の健康介護課からやはり介護保険を独立させる。組織改編して担当する。このようにすれば、切れ目のない健診体制、あるいは切れ目のない健康状態の把握はできると思うんです。やはりどうしてもこの空白は埋める。これは急ぐべき課題ではないかと思うんですが、市長いかがですか。

○田辺一城市長 つまるところ、議員はですね、この空白期間も含めて、市行政、公が把握を、個人の状況を把握できる体制をつくるべきだというふうにおっしゃってるのかと思いますが、要はその必要性含めて御意見として賜れたらというふうに思います。

なお、もう御承知だと思いますけど、このおおむね18歳以降の若年層のですね、健康というのは、それぞれ現段階によってはそれぞれ市民の皆さんが個々の責任で自分の健康を守ってもらっている。そのための我々は啓発、発信はしていることとあります。

○奴間健司 仮に小中学生は学校健診があるとしてですよ、16歳から29歳までという年代層は何か積極的チャンスがあるのかと思います。市長、そこをどう認識してるのか。

○田辺一城市長 それぞれのステージにおいて、例えば高校は高校で当然やっておりますし、それぞれの人生の若年層でも段階においてですね、自らの健康を守るための取組をするチャンスというのはあると思います。

○**奴間健司** この認識は、やはり市長しっかり調べていただきたいんですね。私はないんだと思うんですよ。だから、小中学校の段階で習慣づけ、一番働き盛りというかな、もう受診、健診とか受けない年代ですね、受けにくい年代、ここでやっぱり十分な対応ないから、40、50 になって突然倒れてしまったり重症化する。だから、効果的な仕組みを考えてほしい。そこを力説しているんですね。何なんですかね、この一線越えられないところは。何かこだわっていますか、市長。

○**田辺一城市長** 若年層の健康管理、若い皆さんは、ちょっとそこはまだ意識薄いので信頼できないから公としてきちんとアプローチして管理してやるべきじゃないかというお話に聞こえるんですけども、その前の段階ですね、我々はやっぱり乳幼児期から保護者の人、保護者の方がしっかり意識を持って子どもと接して、小中学校で我々の今責任の及んでいる小中学校の中の健診、そしてその健診結果を受けて、さらに必要な者に対するアプローチだったり、また新たな今年度の取組だったりということで、幼少期から小中学校期におけるですね、本市の取組によって健康を意識することを子ども自身にも習慣化をするということ意識して様々取り組んできているつもりです。それが高校生、またその先の若いときですね、きちんと自分のことを考えなければなどということも狙ってやっておりますので、そこはむしろ我々の取組によって、市民の皆さんがそういう意識を持ってもらえるという信頼の下に今取組を進めていおります。よりリスクがどんどん高まってくる年代に対して公としてアプローチしていくと、一定合理性があると思っています。

○**奴間健司** 誤解のないようにしときたいんですが、職員皆さんがインボディとかいろんな取組して、これは宇美町の保健師さんも古賀市はすごいって評価しております。それを私が駄目だと言ってらんじゃないんですね。香川県の分析、宇美町の糖尿病の数字、いろいろリアルに示して、これもう3年たった。今日は香川県のことをちょっと詳しく言った。こういう実態を目の

前にして、古賀市も恐らく似たような傾向を抱えてるんじゃないか。特にコロナ禍でそれがまた加速してるんじゃないかということで、すごく心配してるんです。私自身も、最近いろいろ、年なりにですね、健康課題を抱えて考えることがあったんですよ。ああ、やっぱりもっと早く何とかしなきゃよかったなっていうね。だから申し上げてるんでね、そこを誤解してほしいないんですね。今やってることを否定してるんじゃない。しかし、より詳しく検査することで、より効果的な対策を打てるんだ。ほかの自治体増えてるよ。ここは伝わったですかね、市長どうですか。

血液検査でより効果的対策が可能に

市長「議員の考えは理解、あとは程度論の部分」

○**田辺一城市長** いや、議員のお考えは十分伝わっています。私もですね、おっしゃってる意味はすごく理解してますし、その有意だっていう発言、もちろんしてますから、分かってます。

その上で、結局これ程度論の部分もあってですね、どこまで、今提起があつてるカテゴリの中でどこまでやるのかということの最後判断をしているということですので、もちろん絶対こんなこと意味ないよ、不要だと私ももちろん思っていないし、ただ、私のマネジメントの中で知る限りにおいては、現在学校教育現場と保健福祉現場でやっている営みというものをしっかりとやっていくということが今の形になっているということですので、おっしゃっていることは理解しています。

○**奴間健司** 宇美町の保護者や子どもの感想を紹介しましたよね。古賀市の保護者、まだ古賀市はやってないけど、どんな気持ちかなというのもね、確かめたら決断につながると思うんですが、市長そういう調査するお気持ちはありませんか。

○**横田浩一教育部長** 小中学校の児童生徒に関して、そういった調査をするかしないかというのは、ちょっと今検討しておりませんので、御意見として賜りたいと思います。

○**田辺一城市長** その調査というのがどういう手法でどういうものかというのはありますけれども、

健康づくりをですね、各年代にいろんな取組でアプローチを我々、御存じのようにしております。そういった中で、市民の皆さんと接点を持つ機会、当然職員多々あります。そうした中で、お声をですね、拾っていくというのは日常的にももちろんやっていますけれども、今回議員からそういう今回のやり取りみたいなのもあったというのはもち

ろん職員も把握しますので、今日のやり取りというのも各職員、頭の中においてですね、市民の皆様とまた接していくということが肝要かと思えます。
○奴間健司 宇美の町長と話をしてください。もし聞く機会があれば、また別の機会でお聞きします。



私は議会運営委員会の委員長を務めています。議会力アップのためにはまだまだ努力が必要です。10月に議運で先進事例を視察研修しました。(右写真)

議会機能の向上目指し先進議会視察

第18回 市民フリースピーチ 発言者募集
犬山市を良くする議案をテーマに、市民が自由に発言できる場を設けます。
開催期間 令和4年4月25日(月)～令和4年5月24日(火)午後5時(祝日除く)
開催場所 犬山市議会 議事堂
申込先 犬山市議会 議事堂 庶務課 電話 0566-84-0207 FAX 0566-84-0208
申込先 犬山市議会 議事堂 庶務課 電話 0566-84-0207 FAX 0566-84-0208

犬山市議会視察
10月11日
市民が議場で5分スピーチ
全議員が市民提言を受け止める



来年の
予算審査に
活かさないか

可見市議会視察
10月12日
決算審査から議会として
提言を提出
次年度予算に反映

古賀市長選挙 35年ぶりの無投票

2022年11月20日

田辺 一城
1日 · 🌐

「私のことをご支援ご支持いただいている方もいらっしゃる一方で、『いやいや田辺、お前なんばしょつか!』という考えの市民の方もいらっしゃいます。今回はそれが数字で見えない状況ですので、私自身が今回の無投票当選というものをしっかりと自分のなかで受け止めて、咀嚼して、そして気を引き締めてこれからの2期目4年間を、市長として真剣にまちづくりに取り組まなければならないと思っています」

data-max.co.jp
【古賀市長選】現職・田辺氏が無投票で再選 | NetIB-News

無投票当選後の田辺市長のブログ

「無投票」と言うことは、有権者が民意を示していないということ。対話やアンケートなど民意の把握や議会におけるチェックがますます重要になります。

西日本新聞 2022年11月21日

古賀市長選 「定住機能を強化」
無投票再選の田辺氏抱負

「誰も生きやすい地域社会をつくるのが私の政略の柱。4年間でブラッシュアップしていく。20日告示された古賀市長選で、無投票での再選を決めた田辺一城氏は、2期目の決意を語った。4年前、県内最年少の首長となった。その1期目は、JR古賀駅東口の最大地権者であるニレン建設と町づくりの協力協定を結び、懸案の再開発事業を進めた。引き続き駅周辺の活性化を力を入れ、市の一体的発展を目指す。公約に掲げた子ども医療費助成の拡大など「デルドレン・フェア」の政策も継続する。

市内は九州自動車道や国道3号など主要道が走り、食品業を中心に工場が集積。2期目では、ここで働く人々の「定住機能を強化」する一歩を踏み出した。党派を超えた「オール古賀」を旗号し、20日朝の投票式は与野党の国会議員や近隣市長が顔をそろえた。ただ選挙は旧時代の108

7年以來、35年ぶりの無投票で、有権者4万3070人は民意を示していなかった。野村大輔

無投票で再選を決め、支持者と万歳三唱する田辺一城氏(左)

西日本新聞(11月21日)

次期古賀市長選 ～私の想いと覚悟～

この文書は11月7日に公表しました

●市議としての責務を全う

2022年11月20日に古賀市長選挙が告示されます。田辺市長以外に立候補の動きはないようですが、選挙になるか、無投票になるかは告示日の午後5時に確定します。私は、今後の動きを見定めるとともに、田辺市長が市民に示すマニフェストを注視します。

市議選は来年4月に実施されます。今期は市議としての責務を全うします。

12月定例会でマニフェストについて質問します

●市政適正化と政策提言の3年半

私は4年前の市長選挙に立候補しましたが力及ばず田辺市政が誕生しました。

その後、市議に復帰し、議会運営委員会委員長、政策推進会議会長、文教厚生委員、会派・友和の一員として議会機能の発揮に心がけ活動してきました。

田辺市政に対し、対話の在り方、薬王寺快生館の見通し、千鳥苑の存続・活用、宮地岳線跡地の活用、会議録の作成・公表等について問題点を指摘し改善を求めてきました。また、こども特定健診の早期実施をはじめ健康づくり対策拡充を繰り返し求め続けています。

3年半の議員・議会により行財政運営の適正化を図り市民福祉を向上するために一定の役割を果たしたと考えています。

●議会力アップをさらに追求

しかし、前述した懸案事項の解決はこれからが正念場を迎えます。物価高騰や少子・超高齢化など大きな課題はさらに進行します。2元代表制にもとづく議会と市長の関係の確立は今後ますます重要になりますが、議会力アップはまだまだ必要と認識しています。更なる議会力アップを追求していきます。

●次世代育成と市民力アップに力尽くす

民主主義において選挙は重要な機会であり、無投票は好ましくないという思いがあります。一方、2元代表制のもとチェック力や政策提言力が発揮される議会に変えていかなければならないという思いも強く抱いています。

さらに、市民の願いが反映されるまちづくりには市民力が基盤になればなりません。市民の皆さんへの情報発信や直接対話の場づくりは今後も継続していきます。加えて、新たな政治文化の醸成・市民シンクタンク育成に向けた種まきに着手します。

●進化・成長に挑み生涯現役めざす

今回の市長選挙はまちづくりの一つの通過点です。私は古賀のまちづくりに30年近くかかわってきました。この経験を伝承するとともに更なる進化・成長に挑みます。目標は生涯現役です。市民の皆さんのご理解とご協力を引き続きお願いします。

2022年11月7日

この文書に対するご質問、
ご意見がありましたら
メール等で送ってください。

古賀市議会議員 奴間健司

チーム輝



8月27日に「はじめの一步」を踏み出しました(写真左)

学ぶ

相談

実践

協力

「チーム輝」は…

- ①学習と相談を重視します
 - ②チームで協力して実践します
 - ③各自の得意分野を生かします
- 2元代表制のもと、議会力をアップさせ、市民福祉の向上をめざします。

実現

歩み始めました 最初の目標は議会力アップ

- ぬま健司（市議7期目、花見東2区）
- たきぐち由美子（水泳指導者、舞の里4区）
- 田中やすひろ（介護職員、花見東2区）

7期目の3年半余 活動の主な報告

以下の取組に力を入れました。

- SNS** 新型コロナや市政・議会の情報を連日発信しています
- 市政チェック** 道の駅、SDGs、第5次総合計画、薬王寺インキュベーション、千鳥苑などをめぐり田辺市政を検証。
- 地域課題解決** 花見小前のハンブ、宮地岳線跡地ワークショップ等を地域共同で実現。
- 議会合意形成** コロナ感染時の議会機能、オンライン会議の条例改正、地球温暖化対策の議会提言など合意形成に向け努力。議会機能を推進・実現。
- 健康づくり** 子ども特定健診、認知症支援など地域医療をライフワークとして実行中。
- 身近な市民相談**の解決支援



- 1952年4月17日生まれ（石川県加賀市）
- 市議7期目、議会運営委員会委員長、政策推進会議会長、文教厚生委員会派・友和
- 地域医療と市民を結ぶ会事務局長、「チーム輝」代表
- 千鳥小児童による千鳥が池観察会のゲストティーチャー、卓球協会理事、花見苑自主防犯パトロール
- 千葉大医学部中退、神奈川県立平塚江南高校卒
- 事務所は千鳥（東医療センター前）、自宅は花見東2区

さらに10年 生涯現役で頑張ります

7期目の任期は残り5か月余ですが、あと10年は頑張ります。生涯現役がモットーです。

- まちの保健室**、子ども特定健診、千鳥苑の存続活用、環境・平和で結果を出します。
- 「チーム輝」**で市民力、議会力をアップします。次世代育成に本格的に着手します。
- SNS**による情報発信に磨きをかけ継続・充実させます。



千鳥駅でニュースレター配布

「ぬま健司の提言詳報（第22号）」（発行日 2022年12月10日、発行者 奴間健司）

- 事務所 〒811-3113 福岡県古賀市千鳥2-3-7 安部ビル103 092-944-2639
- 自宅 〒811-3112 福岡県古賀市花見東5-4-10 092-943-4427 携帯 090-3664-1674